

巻頭言

特集

DesignX * XDesign

—未知の分野における新たなデザインの理論・方法の提案とその実践—

KEIO SFC JOURNAL Vol.17 No.1 特集編集委員一同

近年、政治、都市、環境、エネルギー問題といった複数の利害関係者から成立する社会・技術的問題に対して、デザインは従来の設計手法や理論では取り組むこと自体が困難となってきている。

そこで本特集は2014年にデザイン学、認知心理学研究者であるドナルド・A・ノーマンらによって提唱された非常に複雑な社会・技術的問題を対象とするデザイン概念である「DesignX」に注目し、デザイン手法や理論の拡張、更新に関して広く論じていただいた。デザインが生活環境および生活世界を成立させる事実に向ける過程だとすれば、それは「見栄えを整える」ことだけでもなく、「短絡的な問題解決」だけでもなく、新技術を応用した「便利な製品」を作り出すことだけでもない。新たなデザインの実践を通じて自らの領域自体を更新しようとする自己言及的な過程こそがデザインであり、そこでは実践と言語化を往復的もしくは並行的に行う技術と知識、行動力と智力が求められる。

本特集は招待論文と投稿論文の二つから構成されるが、その内容は多岐に及ぶ。DesignX * XDesign と本特集は名付けられたのも、複雑な社会・技術的問題と設計理論、手法、行為、対象などを掛け合わせることで顕現する領域を表すためである。アルゴリズムックデザイン、マテリアルデザインやスペキュラティブデザインなどの設計理論に関する論文や、シミュレーションやプロトタイプングなど設計手法に関する論文、問題解決から課題生成へ、ひいてはエピメテウスのデザイナー像に至る設計行為に関する論文、エネルギーからランドスケープなどの設計対象に関する論文まで、本特集におけるアスタリスクが結ぶエレメントは多様である。しかし、全ての根底にあるのは複合的要因から成立する

現在の、そして未来の生活環境そして生活世界の生成にむけた新たな認識、理解のための理論や手法であろう。

本特集がデザイン学や広義の人工物の設計に関する研究に対する理解の一助となれば幸いである。最後になるが、寄稿、投稿いただいた著者の皆様、そして査読にご協力いただいた諸先生方に感謝申し上げます。